成長可能性に関する説明資料

株式会社エンバイオ・ホールディングス
＜証券コード：6092＞
2014年3月12日

目次

1. 会社概要
page: 3 - 8

2. 事業概要
page: 9 - 21

3. 成長戦略
page: 22 - 30

4. 業績動向
page: 31 - 32

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

1. 会社概要
page: 3 - 8

2. 事業概要
page: 9 - 21

3. 成長戦略
page: 22- 30

4. 業績動向
page: 31 - 32

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

土壌汚染の調査・改善に関するサービスと商品を提供

会社名	株式会社エンバイオ・ホールディングス
代表者	代表取締役社長　西村　実
本社	東京都千代田区神田多町二丁目11番地
設立	平成11年6月23日
事業内容	土壌汚染の調査・対策工事・コンサルティング 土壌汚染関連機器・資材の販売 ブラウンフィールドの活用
資本金	9,000万円（平成26年2月28日現在）
連結業績 （平成25年3月期）	売上高　1,493百万円 経常利益　104百万円
グループ従業員数	33名　（平成26年2月28日現在）
連結子会社	株式会社アイ・エス・ソリューション 株式会社ランドコンシェルジュ 株式会社ビーエフマネジメント
持分法適用会社	江蘇聖泰実田環境修復有限公司（江蘇省南京市）

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

土壌汚染をテーマに事業化したきっかけ

代表取締役社長である西村は、研究員として勤務した日本総合研究所時代に
社会問題化してきた土壌汚染問題に取り組み
政策提言、技術開発支援などのコンサルティング業務を実施しました

土壌汚染対策法の形が見えてきた頃から現業を通して
土壌汚染問題の解決に貢献したいと考えました

平成15年1月に日本総合研究所時代に築いた国内外の人的ネットワークを活かして、米国から原位置浄化の基盤技術を導入して
原位置浄化を特徴とするアイ・エス・ソリューションを設立しました

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

沿革

年　　月	変　　遷　　の　　内　　容
平成11年6月	環境分野にバイオテクノロジーを応用する研究開発会社として、株式会社エンバイオテック・ラボラトリーズ（当社）を東京都江東区に設立
平成15年1月	土壌汚染の調査・浄化・コンサルティングサービスの提供を目的とした株式会社アイ・エス・ソリューションを100%子会社として設立（資本金4,000万円）
平成17年3月	本社事務所を東京都千代田区へ移転
平成18年8月	土壌調査・浄化工事用の専門機器、資材の輸入販売を目的とした株式会社ランドコンシェルジュを100%子会社として設立（資本金500万円）
平成20年9月	株式会社ランドコンシェルジュの物流と技術サービス拠点として埼玉県入間郡三芳町に所沢サービスセンターを開設
平成21年3月	グループの事業を土壌汚染対策関連事業に集中するために環境用バイオアッセイ事業を営業譲渡
平成22年3月	土壌汚染が懸念される土地（ブラウンフィールド）の流動化を目的とした売買や有効活用支援サービスを提供する株式会社ビーエフマネジメントを100%子会社として設立（資本金1,000万円）
平成22年6月	純粋持株会社体制へ移行、併せて社名を株式会社エンバイオ・ホールディングスに変更
平成24年6月	中国での土壌汚染の調査・浄化・コンサルティングサービスの提供を目的として日中合弁で江蘇聖泰実田環境修復有限公司（ISS China）を持分49%出資で江蘇省南京市に設立（資本金2億5,000万円）

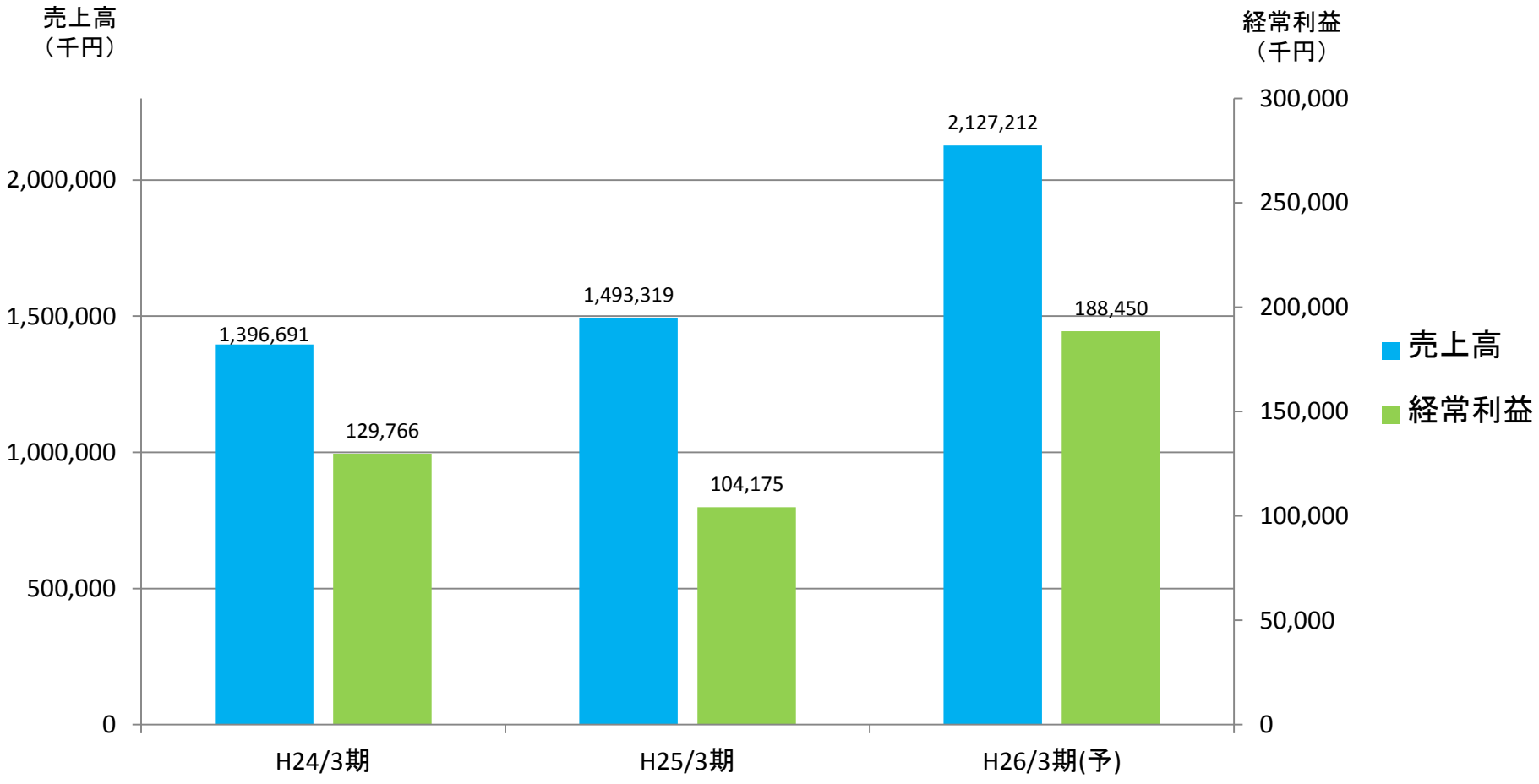
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

経営方針

1. 顧客満足第一とし、成果、品質、価格、アフターサービスで期待以上の満足を提供し続ける
2. バイタリティーとスピードで技術革新に挑戦する
3. 展開する事業領域でNo.1を目指す
4. 国内で事業基盤を固めグローバルに展開する
5. グループの相乗効果と総合力を生かして、継続的で質の高い成長を目指す
6. 社員が安心して業務を遂行できるように、社内環境・待遇の継続的な改善に努める

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

連結売上高と経常利益の推移



Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

1. 会社概要
page: 3 - 8

2. 事業概要
page: 9 - 21

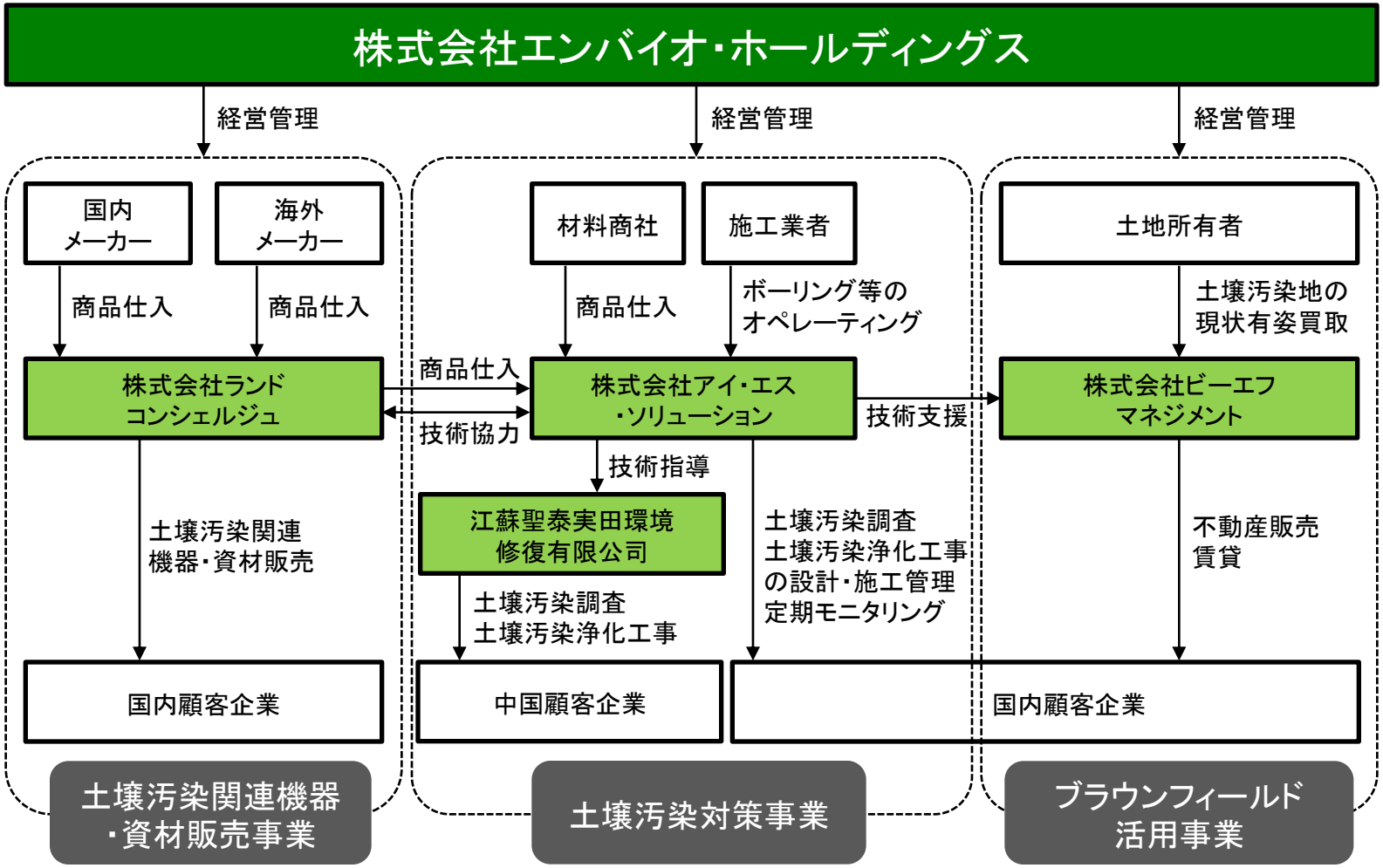
3. 成長戦略
page: 22 -30

4. 業績動向
page: 31 - 32

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

原位置浄化のリーディングカンパニー

土壌汚染調査・対策工事を中核に関連機器・資材の提供から汚染不動産の有効活用まで、土壌汚染問題のトータルソリューションを提供します



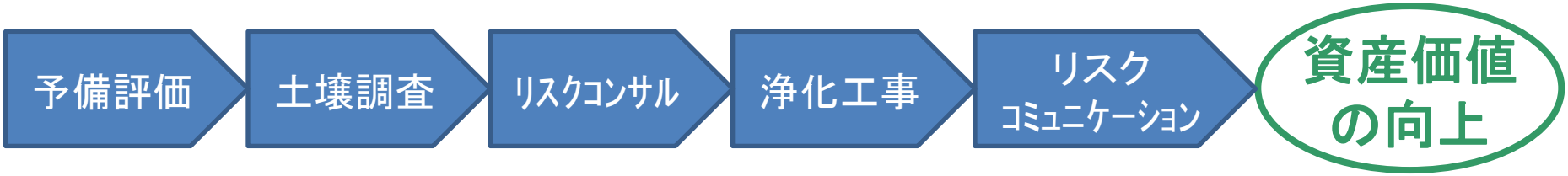
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

土壌汚染対策事業

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

国内担当：㈱アイ・エス・ソリューション（ISS）

■土壌汚染の初期診断から確定診断、リスク低減対策までワンストップで提供



・ヒヤリング・資料等調査・計画策定

・土壌調査・解析・リスク評価・対策設計

・各種届出・申請・行政協議

・工事施工・モニタリング・リスク再評価

・行政協議・折衝・関係者の合意形成

■主な顧客：石油会社、メーカー（不動産会社等の紹介）、建設会社、
エンジニアリング会社、環境コンサル会社、
中小町工場・クリーニング工場（BFMの案件）
《売上の80%以上をリピート受注で構成する安定的な顧客基盤》

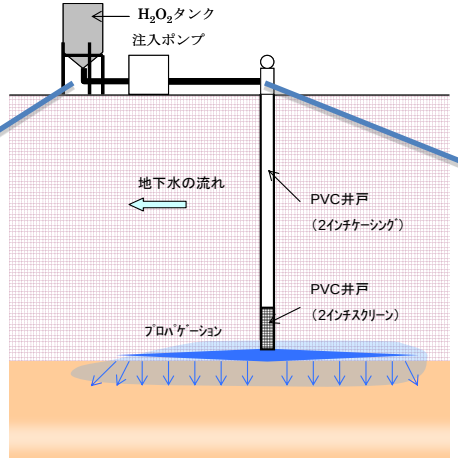
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

原位置浄化技術を先駆けて採用

掘削除去一辺倒の時代に原位置浄化を採用し、汚染土壌を掘削せず安価に土壌汚染を浄化できるという特徴で顧客のニーズを掴みました

	技術概要	メリット	デメリット	特記事項
掘削除去	汚染範囲の汚染土壌を掘削、場外に搬出し、跡地を清浄土で埋め戻す	•全汚染物質に適用可能	•浄化費用が高額 •地下水の浄化が困難 •環境負荷が大きい	•高度な技術力が不要なため、どの会社でも実施可能
原位置浄化	汚染範囲の地盤に浄化薬剤等を投入して汚染物質を分解したり回収したりする	•浄化費用が低額 •建屋を残した浄化、営業中の浄化が可能 •地下水の浄化が可能 •環境負荷が小さい	•適用できない汚染物質（重金属類）がある	•高度な技術力が必要なため、実施できる会社は限定される •ベンゼン、トリクロロエチレンなどで優位





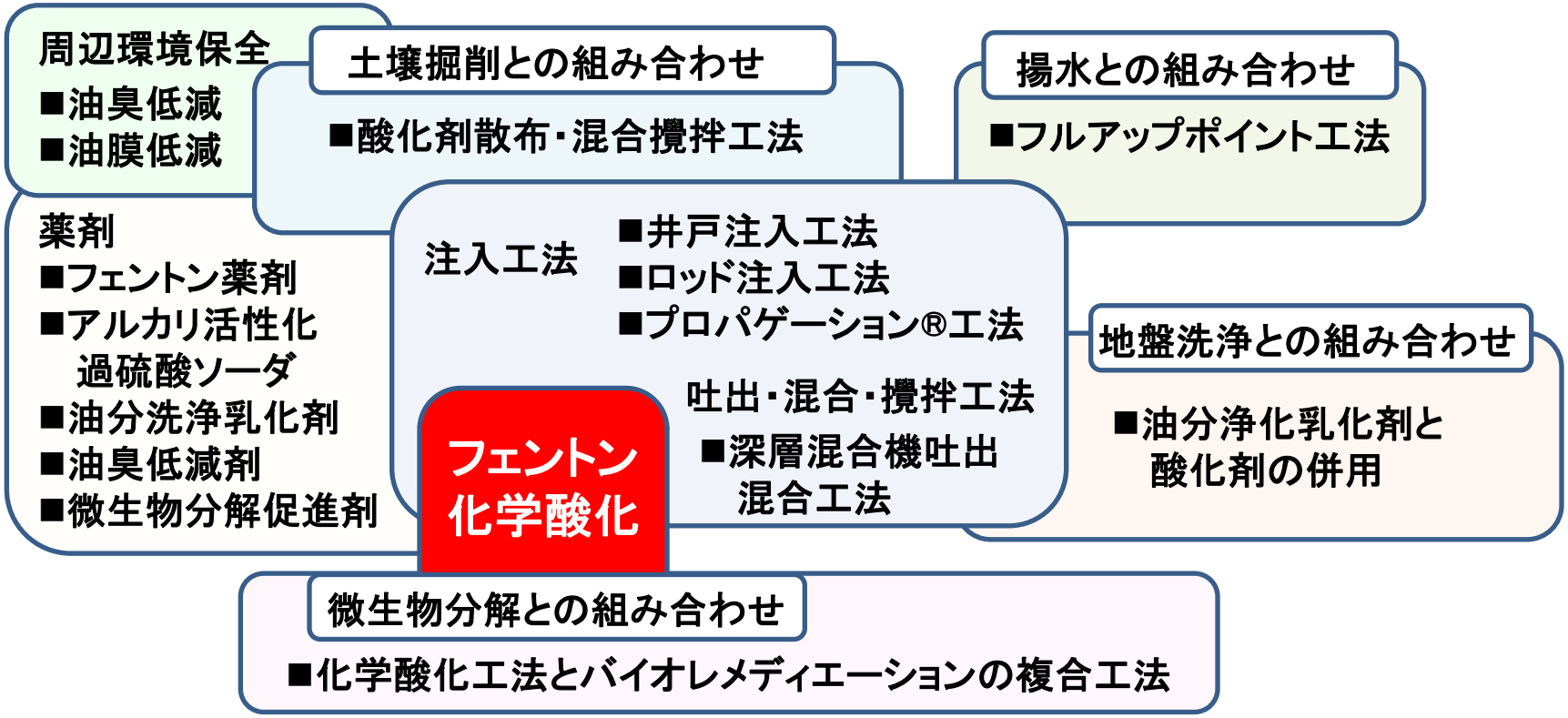


原位置浄化システムの一例

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

ISSの原位置浄化の特徴

1. 短時間で汚染物質を分解できるフェントン化学酸化をコア技術に現場の状況に応じて微生物分解や物理的工法を組み合せた最適システム
2. 浄化可能な汚染物質の種類が増加し、高濃度汚染も浄化できるなどフェントン化学酸化の単独工法に比べて適用範囲が拡大
3. コア技術のフェントン化学酸化は特許で権利化（特許第4700083号）



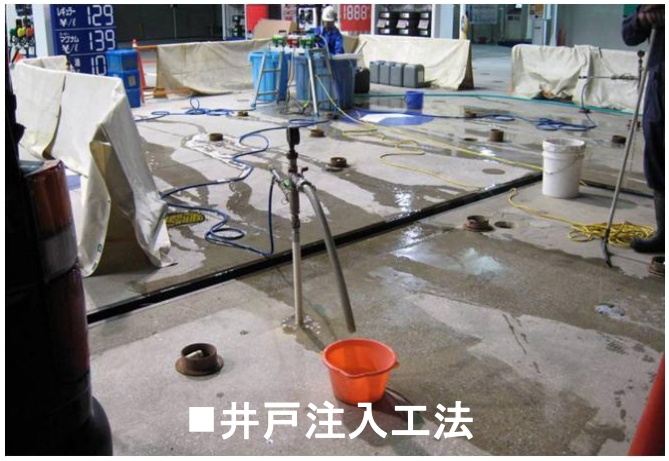
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

原位置浄化の浄化完了実績は440件超
（平成26年2月末現在）

600社以上※が参入する競争環境で原位置浄化が出来る企業は
大成建設、栗田工業、同和エコシステムなど極少数
※土壌汚染対策法に基づく指定調査機関　649機関（平成25年11月15日現在）


■プロパゲーション®工法


■フルアップポイント工法


■井戸注入工法


■深層混合機吐出混合工法

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

中国担当：江蘇聖泰実田環境修復有限公司

- 国内で蓄積した原位置浄化の技術とノウハウを急成長が期待できる中国市場に展開
- 平成24年6月南京で設立、当社出資比率49%
- 中国側合弁当事者は江蘇聖泰環境科技股份有限公司（江蘇省環境庁傘下の旧国有企業）
- 中国では数年後の法制化に向け、複数のモデル地域で政府発注の大型案件が計画中、モデル地域の一つが江蘇省
- 平成25年3月、南京で第1号案件を受注（中規模試験工事）



Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

ブラウンフィールド活用事業

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

担当：㈱ビーエフマネジメント（BFM）

- 土壌汚染地を浄化費用を見込んで現状有姿で購入
- ISSが浄化した後に汚染の無い土地として売却
  ⇒土壌調査・対策費用が捻出できない中小事業者が対象
- 通常の宅建業者が敬遠する土地を取り扱う（BFMの競争力）
  ⇒BFMとISSの連携により、他の土壌汚染対策事業者が受注できない案件を取り扱う（ISSの競争力）
- クリーニング工場や町工場の土地に着目
  ⇒ニッチ市場でトップシェアを獲得してメジャーに！



ISSとBFMが連携してトータルソリューションを提供

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

グループ内連携による土壌汚染地の開発

土壌汚染が原因で塩漬けになっていた都内クリーニング工場の取組事例

購入：2012年3月



- 敷地面積120坪操業40年を超えるクリーニング工場
- ISSが事前調査を実施、その結果より浄化費用を予測。
- BFMが物件相場を精査し、出口価額と浄化・解体費用を徹底精査して現況で購入。

浄化終了：2012年10月



- ISSが土壌汚染対策法に基づく手続を実施。
- 区域指定を受けたうえで、汚染拡散防止措置計画を都に提出。
- 原位置浄化工事を実施。

売却：2013年3月



- 浄化工事終了後モニタリングで基準適合を確認。
- 都に確認のうえで地盤改良工事を施工後、売却。
- 売却後もモニタリングを継続、区域指定解除まで責任を持つ。

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

土壌汚染関連機器・資材販売事業

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

担当：㈱ランドコンシェルジュ（LC）

米国環境保護局が開発を支援した原位置調査・浄化の基盤設備（ジオプローブマシン）の国内独占販売権を核に各種ツールス、浄化用薬剤を組み合せた
原位置調査・浄化用システムをトータルで提供



HRC® HYDROGEN RELEASE COMPOUND

HRC ADVANCED™ HYDROGEN RELEASE COMPOUND

ORC® OXYGEN RELEASE COMPOUND

REGENESIS

Solinst®







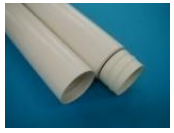
QED Environmental Systems

Geoprobe® Systems













Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

1. 会社概要
   page: 3 - 8

2. 事業概要
   page: 9 - 21

3. 成長戦略
   page: 22 -30

4. 業績動向
   page: 31 - 32

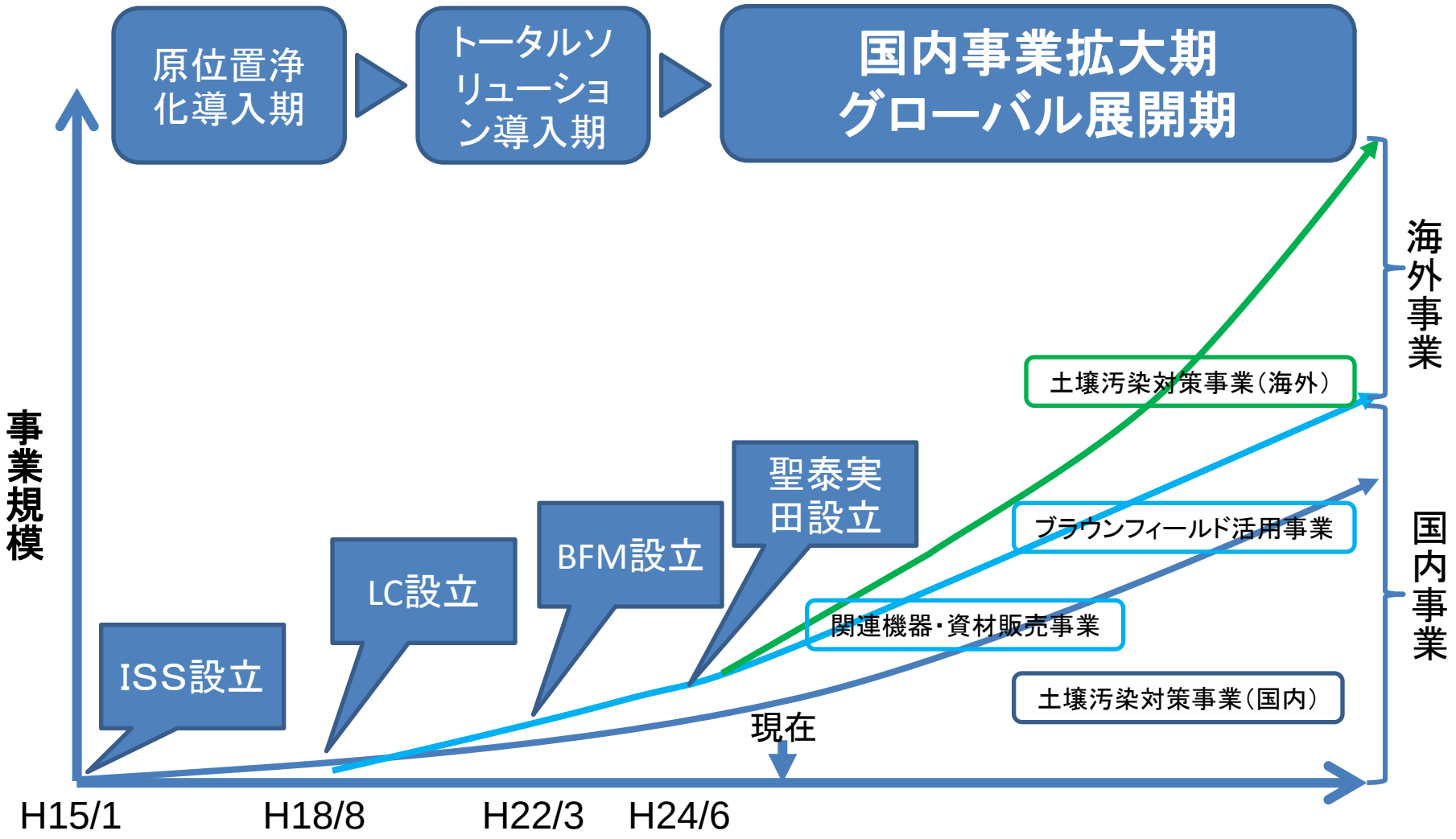
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

当社の強み

1. 競合他社に先駆けた原位置浄化の商業化
   - 原位置浄化のリーディングカンパニーとしての知名度向上
   - 過剰な価格競争に巻き込まれない収益力を実現
2. 安定した顧客基盤の形成
   - 大口のリピート顧客として石油業界を開拓
   - リーマンショック後の市場縮小期も売上増を実現
3. 競合他社にはないトータルソリューションの提供
   - ブラウンフィールド活用事業との連携で中小事業者を顧客化
   - 米国の最先端技術・製品を先行的に導入・提供

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

成長ストーリー



Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

成長戦略

1. 原位置浄化の実績を梃子に新規顧客基盤を拡充

2. グループの総合力を活かした先進技術／サービスで競争優位を継続

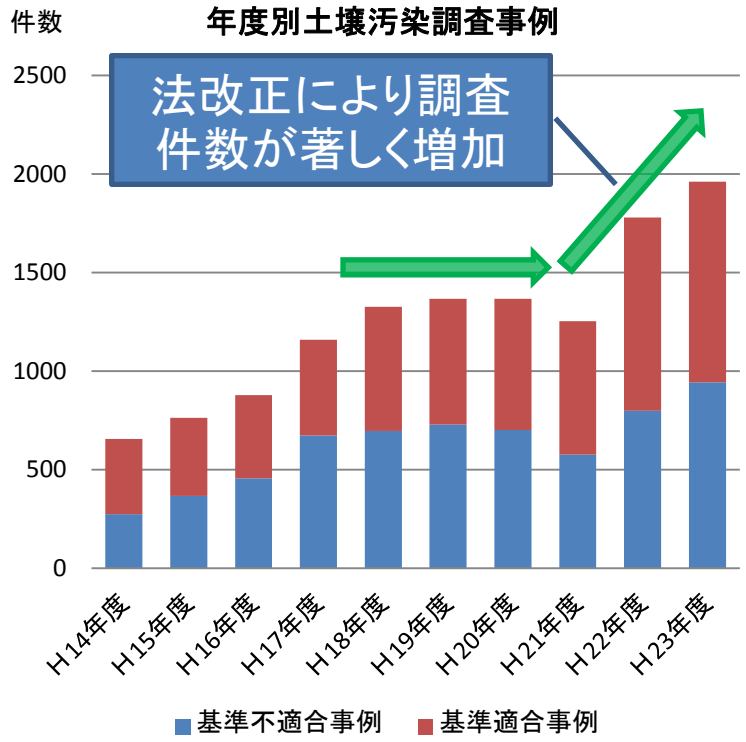
3. 海外市場に原位置浄化技術を投入して収益拡大

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

国内市場は低迷期を脱し、再拡大期へ

潜在市場※	土壌汚染対策に要する費用は約16.9兆円 ブラウンフィールドは土地資産価値で約10.8兆円

出所 ：土壌汚染をめぐるブラウンフィールド対策手法検討調査検討会（平成19年3月、環境省）
※：土地の利用用途別土壌汚染発生確率から推定される土壌汚染が存在する土地全体



顕在化が進む土壌汚染

- 製造業で進む国内生産拠点の再編
- 石油精製能力削減に伴う製油所、油槽所の閉鎖
- ガソリンスタンドの閉鎖（年間1,000店ペース）※1
- クリーニング所の廃業（年間1,000店ペース）※2

※1：資源エネルギー庁資源・燃料部流通課調べ
※2：厚生労働省「衛生行政報告例」

出所：平成23年度土壌汚染対策法の施行状況及び土壌汚染調査・対策事例等に関する調査結果（環境省）

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

1．原位置浄化の実績を梃子に新規顧客基盤の拡充

ガソリンスタンド（GS）の原位置浄化の完工実績で築いた信頼を基に大手不動産会社、総合建設会社、エンジニアリング会社など大型案件の新規顧客基盤を拡充

GS主体から工場跡地の大型案件へ

GSの原位置浄化開始

《主要顧客》
商社系石油販売業

GSの原位置浄化実績　多数
行政対応実績　多数

《主要顧客》
商社系石油販売業
石油元売
GS関連設備会社

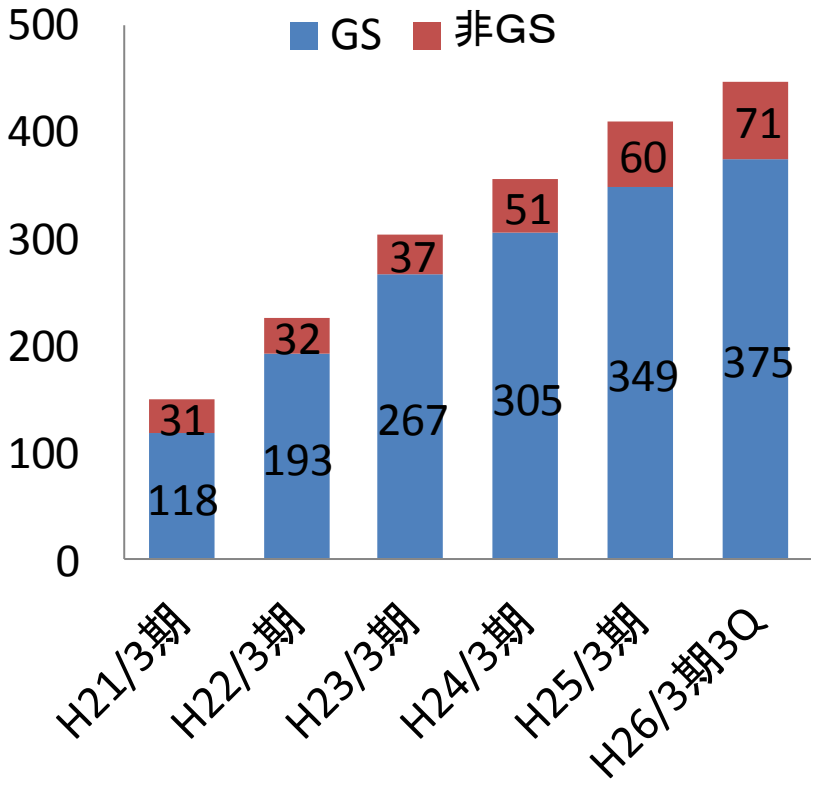
GSの原位置浄化
工場跡地の原位置浄化
クリーニング工場の原位置浄化

《主要顧客》
石油元売
商社系石油販売業
エンジニアリング会社
総合建設会社
道路会社
地質調査会社
大手不動産会社紹介
金融機関紹介
BFM紹介

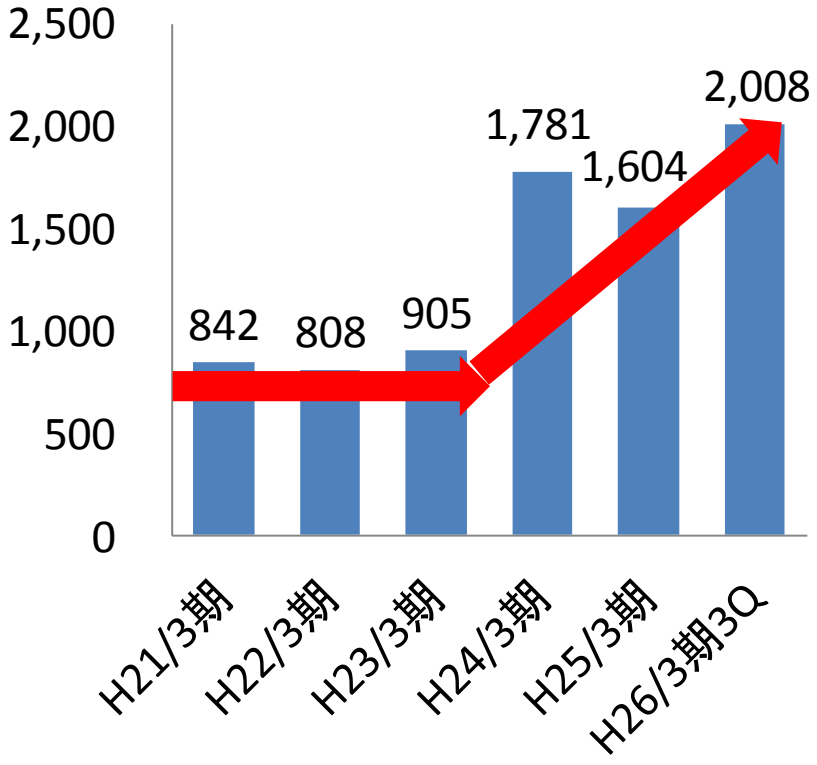
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

非GS案件を増やすことで浄化工事単価が上昇

累積浄化工事件数



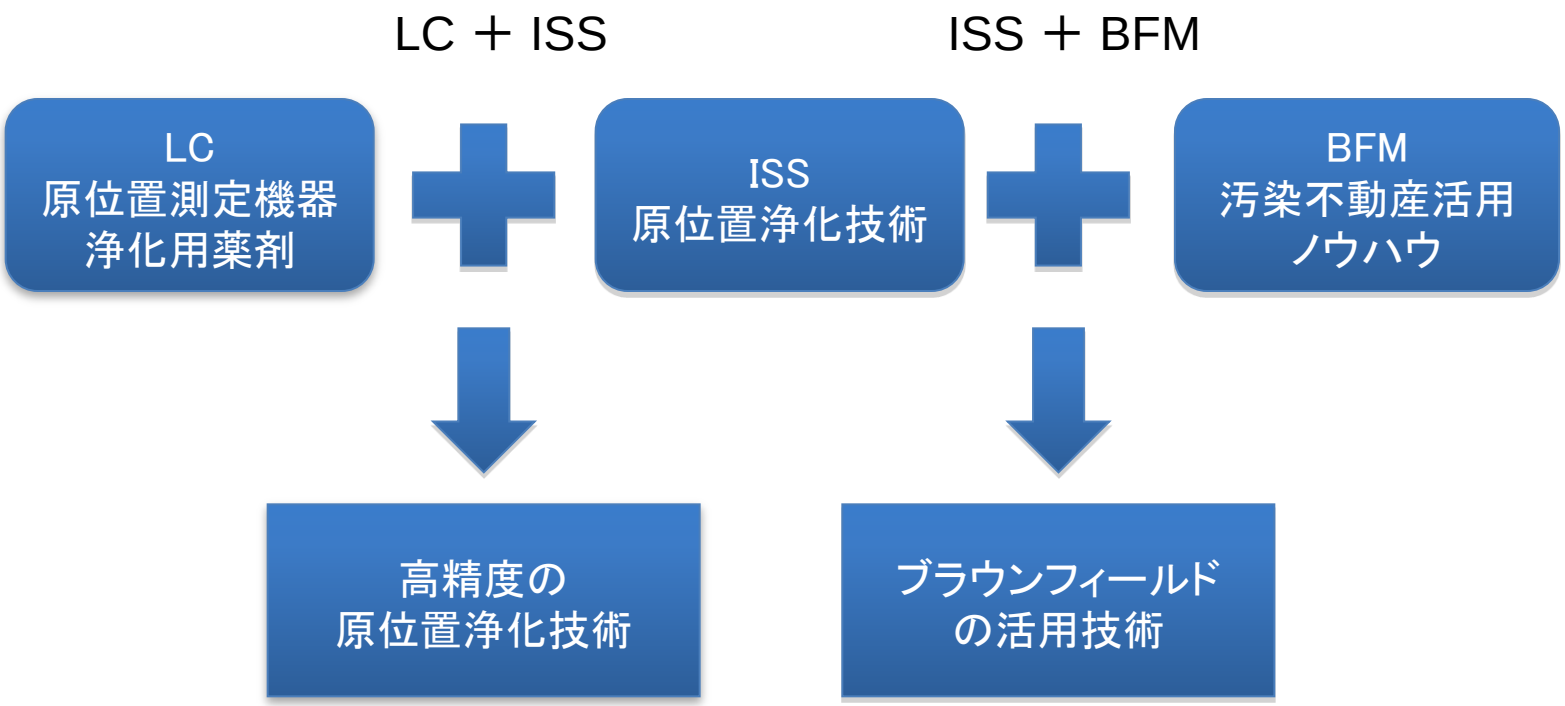
浄化工事単価（万円）



Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

2. グループの総合力を活かした先進技術／サービスで競争優位を継続

「原位置浄化のリーディングカンパニー」としてのブランド力を確保
ISSの原位置浄化技術にLCの機器や薬剤を組み合せた先進技術やISSの原位置浄化技術にBFMの土地活用ノウハウを組み合せた競争力のある先進サービスを提供し続ける。



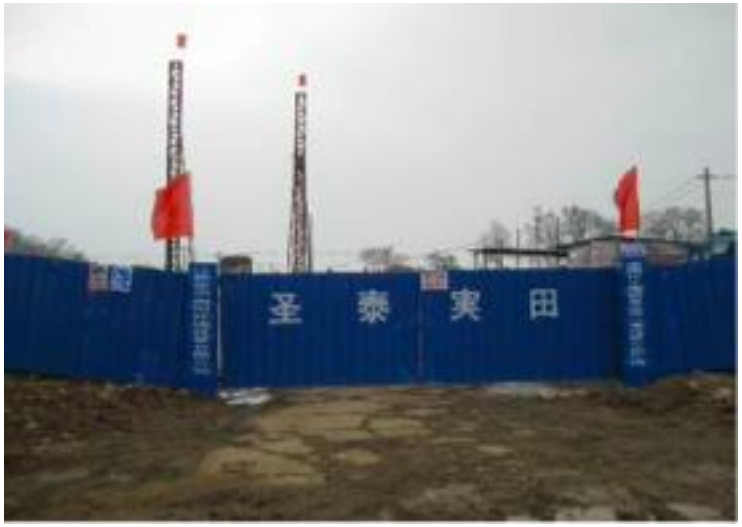
Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

3. 海外市場に原位置浄化技術を投入して収益拡大

最初に、法整備により急成長が見込める中国市場に展開
中国の市場規模：2020年に年間1.9兆円（環境省総合環境政策局　平成24年5月）
日中合弁会社の特性を生かし、地方政府案件及び日系企業案件の両方を開拓



日中合弁会社設立＠南京（2012年6月）



第一号工事＠南京（2013年3月）

中国で原位置浄化の技術と実績を併せ持つ企業は、極めて少ない
実績最重視の中国で、他社に先駆けて実績を上げることで競争優位を獲得

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

1. 会社概要

page: 3 - 8

2. 事業概要

page: 9 - 21

3. 成長戦略

page: 22 -30

4. 業績動向

page: 31 - 32

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.

業績動向

（単位：千円）

		平成24年3月期	構成比	平成25年3月期	構成比	前期比	平成26年3月期予想	構成比	前期比
売上高	土壌汚染対策事業	996,480	71.3%	921,161	61.7%	92.4%	1,344,943	63.2%	146.0%
	土壌汚染関連機器・資材販売事業	336,154	24.1%	304,990	20.4%	90.7%	429,395	20.2%	140.8%
	ブラウンフィールド活用事業	64,056	4.6%	267,167	17.9%	417.1%	352,874	16.6%	132.1%
	合計	1,396,691	100.0%	1,493,319	100.0%	106.9%	2,127,212	100.0%	142.4%
経常利益	土壌汚染対策事業	101,693	78.4%	87,617	84.1%	86.2%	155,925	82.7%	178.0%
	土壌汚染関連機器・資材販売事業	35,900	27.7%	19,083	18.3%	53.2%	35,405	18.8%	185.5%
	ブラウンフィールド活用事業	△7,285	△5.6%	13,860	13.3%	―	17,544	9.3%	126.6%
	その他	△542	△0.4%	△16,384	△15.7%	―	△20,424	△10.8%	―
	合計	129,766	100.0%	104,175	100.0%	80.3%	188,450	100.0%	180.9%
当期純利益		76,104		61,271		80.5%	115,042		187.7%

Copyright (R) 2014 EnBio Holdings, Inc All Rights Reserved.